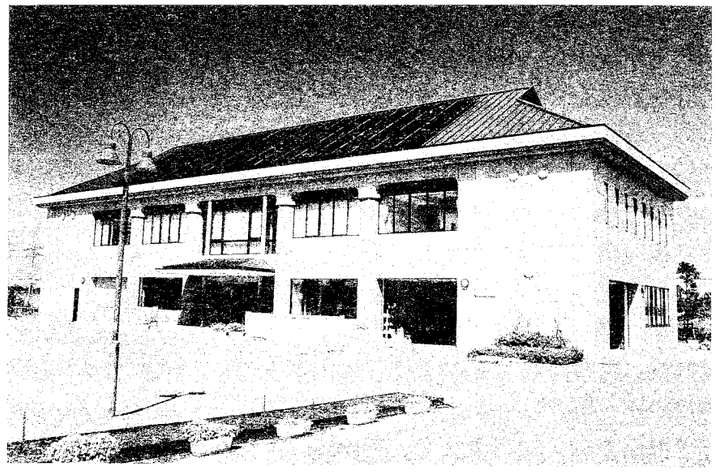
伊藤（いとう）　おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行：伊藤おさむ後援会　　平成17年1月1日発行　№12
〒343-0841　越谷市蒲生東町8番37号　　TEL 048-986-9553　　FAX 048-989-2397
E-mail　osamuchan@ae.wakwak.com　URL　http://park19.wakwak.com/~osamucha/

迎　春



――― 越谷市農業技術センター ―――

農業技術センターは、都心から25キロに位置する越谷市の地理的条件を生かして、都市化と調和を図りながら、いかにしたら安定的で効率的な農業経営が出来るか、21世紀にふさわしい農業の姿を、農業者の皆さんと共に追及する施設として、平成10年4月に開設されました。

このセンターには、溶液栽培の試験温室、バイオテクノロジー関係施設、土壌分析機器、セル苗生産ラインなどの施設があり、栽培に関する技術や情報を農業者に提供します。

また、センターでは、栽培に関する基礎試験だけではなく、多様化、或いは変化する消費者のニーズをつかみ、農業経営者に役立てるための消費調査、市場調査等のリサーチを行います。

新しい風

最近は、どこの自治体でも「市民との協働」という、言葉や行動の提起を行っている。

その意味することは、これまでの行政主導の地域社会づくりを、市民の意思や参加を得ながら共に考え、行動していくことにある。

しかし、その新たな試みを担う主体としての、地域社会での受け皿が、各階層世代によってバランスよく構成されない悩みがある。

とはいえ、高齢社会化が進んでいる現状で言えば、高齢者が中心になっていくのは自然である。

しかも、高齢者の人たちには、能力、経験、エネルギー、時間がある。このパワーを生かさない手はない。あるマンションでは、高齢者が地域コミュニティーの中心になって、さまざな行動をしながら、コミュニティーの活性化を推進している。行政も、より高齢者の能力や、エネルギーを生かす、問題意識と政策提起を考えいくことである。

（正風）

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！

市政報告会並びに12月定例市議会開催！

昨年の11月20日、伊藤おさむ後援会主催の市政報告会並びに懇親会がサンシティー桐の間において盛大に開催され、今まで不在であった後援会長と副会長の就任決定が、集まった大勢の方々に披露されました。

初代会長に選任された長谷川勝利さんは、蒲生で「もつ焼き店」を経営しており、その評判は市内外から来る大勢のお客さんでいつも賑わっている店の店主という意味だけではなく、自治会や少年野球など地域に根ざした活動を続けてきたため、地域の方々からも親しまれています。副会長には、上村四郎さん・金内健二さん・佐久間幸一さん・廣瀬明さん・佐藤喜圀さんの5名が選任され、今後の後援会活動の基盤を磐石な体制で作り上げることを確認しました。

市政報告会では、平成15年12月議会と平成16年6月議会の一般質問(答弁)の内容が報告され、今越谷市ではどの様なことが行われているのかや、どの様な方向に進んでいくのかが示されました。

また、議会での問題点や議員を経験して感じたことなど、多岐にわたり市政に関する報告が行われました。

今回の報告会には、自民党の今井総務副大臣をはじめ松沢県議や会派の樫村議長、浅井議員、江原議員に激励の挨拶をいただくと共に、地方政治改革ネットの仲間である、村上三郷市議、加納宮代町議、山下三郷市議、朝田八潮市議、須永草加市議の方々に心温まるエールをいただきました。

2部の懇親会は、去年大好評であった「ヴィオリラ・フレンズ」の皆さんによる大正琴の演奏が始まり、懐かしのメロディーや最近のリズミカルなポップスのメロディーなど、幅の広い演奏と美しい音色に酔いしれながら幕を閉じました。

12月定例市議会報告

平成16年度12月定例市議会が、去る12月1日～12月16日までの16日間にわたり開催され、市長提出議案27件と、議員提出議案4件が採択されました。

市政に対する一般質問では、過日発生した新潟県中越地震を踏まえ、越谷市の「危機管理」のあり方を提案すると同時に、市長の見解を求めました。また、越谷市の財政状況を鑑み、「行財政改革」の必要性を訴え、かつそれぞれの問題点を取り上げ市長に質問をしました。

地域を知るシリーズ No.10

農家集団の味！

「慈姑楽我(くわいらがあ)」！！

今回は、平成11年度優良ふるさと食品中央コンクール新技術開発部門で受賞された「慈姑楽我（くわいらがあ）」ビールのルーツを探りに、越谷くわい研究会代表の金子繁雄さんにお話を聞いてまいりました。

くわいとは、オモダカ科の多年性の水生植物で、くわいの大きさに対して大きな芽が出ていることから「めでたい」と言われ、昔から縁起物として高級料理店や正月料理など祝い事に広く用いられています。

原産地は中国とされていますが、我が国には奈良時代に渡来したと言われています。野菜として利用しているのは、中国と日本だけですが、とりわけ日本においては、広島と埼玉(越谷市)が有名な産地となっています。その越谷市の栽培地域は、出羽・荻島・蒲生・新方の各地区で盛んに栽培されていましたが、知名度と共に需要と商品値の落ち込みのため、現在では出羽・荻島地区でしかその影が見られなくなっています。この様な現状を踏まえ、7年前に越谷市内(出羽地区及び荻島地区)のくわいを生産している農家集団で考え出されたのが「慈姑楽我(くわいらがあ)」と言う名のビール(発泡酒1本450円)です。この「慈姑楽我」は、縁起物のくわいをふんだんに使った発泡酒で、多くの皆さんに楽しくご賞味いただけるよう《慈姑を我、楽しむ》を願い「慈姑楽我」と命名されたそうです。この「慈姑楽我」には、越谷市のシンボルマークが貼ってあり、それは7年前の「慈姑楽我」誕生と同時期に全国公募の中から市民投票により選ばれたシンボルマークとを併せることにより、越谷市の特産としての「くわい」のみならず、「慈姑楽我」もまちおこしとして世に広めたいと言う関係者の熱意と、越谷市の農家に対するバックアップがあったからだと言います。また、現在越谷市のシンボルマークを商品に貼っているのは、この「慈姑楽我」だけだと金子さんは言います。

11月と12月が収穫期のため、水を張った田んぼでの作業を見ているだけでも凍りつくようでしたが、「日本農業の歴史を守り抜くのだ」と言う金子さんの言葉に目頭が熱くなる思いがしました。

お問い合わせ

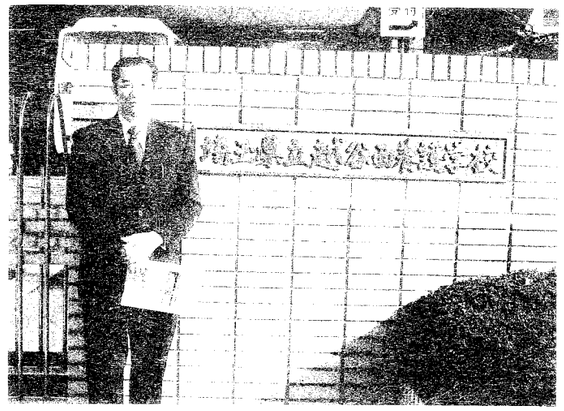
越谷くわい研究会　　代表　金子　繁雄さん

Tel　048-986-1658　　Fax　048-986-1660

伊藤 おさむの

～バリアフリー検証～No.12

「越谷西養護学校を訪問！」



今回は、去る12月13日に「越谷西養護学校」を所属会派のメンバーと訪れ、校長先生並びに教頭先生からお話を聞くと同時に、「障害児教育(養護学校)の現状」を調査してきましたので、その内容を報告したいと思います。

「越谷西養護学校」は、昭和63年4月に小学部36名、中学部52名、高等部56名、計144名の生徒と共に開校した学校です。現在の通学範囲は越谷市・松伏町ですが、高等部の職業専門コースに限っては川口市・鳩ヶ谷市を加えた3市1町に及んでおります。

「越谷西養護学校」での調査は、朝のスクールバスでの登校指導から始まりました。朝9時10分に学校の門が開き、子供達を乗せた5台のスクールバスが一斉に到着すると、先生方が総動員で子供達を温かく迎えに行きます。子供達の中には、その場で立ち止まったり、先生に甘え上履きを放り投げたりと様々でしたが、先生方は無理やり手を引いたり怒ったりはせず、自分で出来るようにと優しく語りかけていました。

登校指導が終わり、教室に入ると体操着に着替え、朝の準備運動を済ませてから学習指導に入ります。小学部の朝の授業を見学している時に、教室のドアに貼ってあるトイレや校庭などの写真が気になりましたので先生に尋ねてみると、「視覚によるものなら殆どの子供達が理解でき、コミニュケーションも図れる」と言います。・・・・・納得です。

高等部になると、職業生活コース・職業基礎コース・職業専門コースのコース制があり、木工室での製材加工や組立塗装、或いは窯業室での焼成作業など6つの作業学習をはじめ

様々な学習が教育課程に組まれています。

この様に、高等部になると卒業後の進路を視野に入れ、心身に障害のある生徒一人ひとりの発達課題に即した指導を進め、もてる力を最大限に発揮させるとともに、障害に挫けず自分の生活を切り拓く力を身に付けさせています。しかし、平成15年度の卒業後の進路を見てみると、卒業生22名に対し就職者9名、通所授産1名、地域デイケア11名、他1名と約半数の生徒が就職できないでいるのが現状です。また、今年度は地域デイケア施設に空きがなく、卒業後の進路が見つからない生徒が出るかも知れないと聞きました。この現実は、政治上の課題であり、早急に検討し実行する必要があるのではないかと改めて感じると同時に、その責任は我々政治家にあるのだと実感しました。

最後に、「越谷西養護学校」の教職員の方々は、生徒が学校にいる間は常に生徒と一緒に行動しているので気を休める暇がないと聞き、「障害児教育(養護学校)の現場」のご苦労を痛切に感じる一日でした。